

産業・企業特講

科目ナンバー 8D305
専門 地域経済系 選択
2単位

山本 健児

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、一国の経済発展と産業構造との関係に関する理論と現実に関して概説するとともに、特に現代世界の主導産業の1つである自動車産業を取り上げ、この産業の欧米と日本における発展と代表的企業について講義します。この授業は、経済学部のディプロマポリシーのうちDP1「1.日本と世界の経済、地域経済、企業経営及び観光に関わる基礎的理論・知識を修得」すること、および地域経済学科のディプロマポリシーのうち、特にDP1「経済学および隣接分野の基礎的理論を理解し、説明することができる」ための基礎に関わります。

2. 授業の到達目標

国民経済の発展と産業構造との関係に関する理論を理解するとともに、特に現代世界のリーディングインダストリーとも言える自動車産業の発展の歴史と欧米や日本、さらには東アジアにおけるこの産業や主要企業の実態を理解することがこの授業の到達目標です。

3. 成績評価の方法および基準

授業最終回に行なう試験に基づいて成績評価をします。また、日本や欧米諸国の経済や産業に関する基礎的な知識等についての質問を授業中に口頭で行なう予定です。これはいわゆる「反転授業」の意味を持ちます。さらに、授業内容の理解が確実にあったか否かを確認するための簡単な小テストないし小レポートを随時課します。これらも最終的な成績評価に反映させる予定です。口頭での質問に対する学生からの解答や小テスト・小レポートについてはその都度教員から正解や解答に至る考え方を解説するので、これが学生へのフィードバックとなります。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストを教科書とはしません。

参考文献

山本健児 『経済地理学入門 新版』の第3章 原書房、2005年

下川浩一 『グローバル自動車産業経営史』 有斐閣、2004年

ジェームズ・P.ウォマック 『リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える』 経済界、1990年

橋川武郎・平野創・板垣暁(編) 『日本の産業と企業 発展のダイナミズムをとらえる』 有斐閣、2014年

Peter Dicken Global Shift. Mapping the Changing Contours of the World Economy, 7th edition Sage, 2015

サイモン・クズネット 『諸国民の経済成長』 ダイアモンド社、1977年

コーリン・クラーク 『経済進歩の諸条件』 勁草書房、1953年

5. 準備学修の内容

この授業では特定のテキストを教科書として用いることはしません。しかし、授業中に随時、読むべき文献や学術論文、インターネットでアクセスできる産業・企業、特に自動車産業に関する論文やホームページなどを紹介するので、これらを読むことが求められます。そのために、予習や復習にはそれぞれ1回の講義につき1.5時間程度の時間を必要とすると考えられます。特に、ノートの整理という意味での復習をしっかり行うことが求められます。

6. その他履修上の注意事項

授業中に素早くメモを取り、受講後、できるだけその日のうちに、ノートを整理することが求められます。

7. 授業内容

- 【第1回】 この講義に関するシラバスの解説と受講上の注意、及び「産業」という概念にかんする解説
- 【第2回】 産業分類の過去と現在
- 【第3回】 産業組織の諸類型
- 【第4回】 国民経済の発展と産業構造(リーディングインダストリーの変遷)
- 【第5回】 自動車の発明国と自動車産業の母国
- 【第6回】 アメリカ自動車工業でFord社が最初に成功したのは何故か?
- 【第7回】 アメリカ自動車工業でGMがFord社を追い越したのは何故か?
- 【第8回】 アメリカへの日本企業の進出
- 【第9回】 日本における自動車産業の発展
- 【第10回】 リーン・プロダクション・システム
- 【第11回】 ヨーロッパにおけるBMWの立地戦略
- 【第12回】 日本の周辺の地域における自動車産業
- 【第13回】 中小企業の自動車産業サプライヤーへの進化
- 【第14回】 CASEで自動車産業は変わるか?
- 【第15回】 試験と総括ディスカッション